

平成21年9月14日

島田市内保育園保護者 様  
幼稚園保護者 様  
小中学校保護者 様

島田市教育委員会  
委員長 小関秀利

(教育委員会からの提言)

## マナーを心得て、感じよく

夏休み、街中のレストランは親子連れの客でにぎわっていました。あるコーナーで二人の小学生と母親が楽しそうに食事をしていましたが、うーん、どうしてもいただけません。母親が両肘をテーブルについたまま箸を運んでいるのです。そして、その箸を子どもの方に向けて話しているのです。

市内のある住職から聞きました。「寺で法事が終わって皆さんお帰りになるとき、玄関の靴箱のところで、大学生だという女子が自分の履物（サンダル）を手にとると、ポーンとコンクリートに投げ下ろしました。はだしでそこへ降りて行き、ひっくり返ったままのサンダルを足で直すとそれを履いて帰って行きました」と。

このような場面に出会うと不快指数が上昇します。**マナーは、お互いが感じよく生活するために必要なものです。**先の母親、女子学生のような不快指数発信者にならないように、大人がまず自らの行動に気をつけなくてはならないと思います。

次に、たとえ嫌がられようとも、わが子に何度となく身につくまで言いましよう。「よそのうちへ行ったら大声で騒がないこと」、「履物はそろえて外向きにぬぐこと」、「はっきりした声で挨拶をすること」などと、このようなことを親から教えられた子どもは、大人になってから必ず感謝の念を抱きます。富士山の湧き水のように、何年か後に社会人となったときその大事さが身にしみてわかるからです。